



合格・卒業・入学と年度替わりの忙しい時期ですね。二十年以上前ですが、都内の大学に入学した時、ちょうど桜が満開でした。見慣れない淡い色のソメイヨシノが新入生の自分を祝福してくれている様で、強く印象に残っています。
新しい一步を踏み出す全ての人に満開の桜があらん事を、神宮寺より祈念しています。

未来予想図

良啓

二月二十三日の産経新聞夕刊に取材記事が掲載されました。沖縄の葬儀事情や永代供養などの墓問題について、記者さんから質問を受けて答えるというものでした。
また、なぜ沖縄に檀家制度が無いのか。
無いからこそ他府県の十年先を歩んでいる葬儀事情など、普段考えていることをお話ししました。



葬式仏教、僧侶の堕落など日本仏教を取り巻く環境は、悪化の一途だと言われていますが、私はそうは思いません。葬式と言う人生の最後をどの様に行うのか。そこに仏教と僧侶が関わる事の意義は、物凄く深いと思います。大切な事は、そこでやるべき事を出し切る術を身につけることではないでしょうか。

一般的に過疎化が進む地域の寺院は、厳しい状況と言われますが、私の知る寺院はその様な雰囲気はありません。住職が様々な行事を開催したり誘致して、非常に活気ある場を築いています。

諸行無常とは、全ての行(事象)は、常に変化すると言う意味ですが、お寺も常に新しい事に挑戦する努力が必要です。そして、それは寺院だけでなく、誰にでも、どんな会社でも通じるこの世の法則だと思えます。さあ、神宮寺と一緒に未来を輝く世界にしていきましょう！

身近にある仏教語⑤

裕俊

私達が日常的に使っている言葉の中には、仏教に関係している言葉がたくさんあります。そんな言葉を由来と共にご紹介させていただきます。

意地

意地をはる、意地悪などという言葉がありますね。仏教では、人間が物を感じる器官を「六根」と呼び、眼・耳・鼻・舌・身・意にかけています。上の五つは視覚、聴覚、嗅覚、味覚、触覚の事で、その五つを統括しているのが六つめの意、つまり意識(心)となるわけです。また心は様々なものを生み出す大地の様なので、意地とも呼ばれていました。今ではわがまま、強情を指しているイメージがある言葉ですが、かつては「意地が良い」という使われ方もしていたそうです。おだやかに、意地良く生活していくことを目指したいですね。

懺悔(さんげ)

よく映画・ドラマで教会の懺悔室にて神父に罪の告白をしているシーンがあり、教会の風習だと思われるかもしれませんが、仏教でも懺悔を行います。

仏教が成立したインドでは、共に修行するお坊さんの集団の中で月に二回、布薩という反省会を行っており、そこで戒律を破ってしまった罪を告白するというものでした。

これはお釈迦さまが、罪を犯しても懺悔をきちんとすれば罪が無くなること

語っておられた事によります。

私たちもお経を読む時に懺悔文という文をお唱えさせて頂いています。



懺悔しても許してもらえなかつた日